

# 幕別町における愛食運動の推進を



幕別町の基幹産業は農業であり、第5期幕別町総合計画には今後の取り組みとして「都市と農村との交流」「農業に対する理解の促進」「消費者と生産者との結びつきの強化」そして、「高付加価値化の促進」が明記されている。

以上の取り組みを具体的に推進する施策として愛食運動の推進がある。

現在、輸入する農産物が増大し、BSEの発生や食品表示問題などにより食に対する信頼が大きく揺らぎ、又、生産者と消費者の関係が希薄になっている。このような問題を背景として食生活を見直し、安全で安心な食生活をするため地産農畜産物やその加工品を地元で食し、又、消費する取組みが広がっている。本町においても、愛食運動を行政の中に明確に位置づけ、戦略をもって推進する必要があると考える。具体的には、

幕別味覚工房について職員体制を含め機能の強化を図り「幕別ふるさと味覚工房まつり」等を行い、愛食料理コンテストや色々な事業を農協や町内の関係機関に連携を求め開催し、都市と農村との交流を拡大し消費者と生産者との結びつきをより強化すべきである。又、有機農業を推進することにより、高付加価値化の促進に力を入れ「幕別町愛食週間」を制定し町民全体で食について考え実践する機会を創出すべきだと考えるがどうか。

幕別町愛食運動について、輸入農畜産物の増加や食品表示の問題などにより、食に対する信頼が大きく揺らいでいる中、生産者をはじめとした関係者が、安全で安心な食料の生産・供給に努めるとともに、消費者である住民が身近な地場産品の良さを理解し、積

町長

愛食運動について

極的に愛用しようとするもので、非常に有意義な取り組みであろうと認識している。本町の取組みとしては、特に愛食運動という明確な位置づけはしていないが、町や教育委員会などにおいても随時取り組んでいるところである。また、このような取組みを進めるにあたっては、行政だけでなく、農協をはじめ関係機関との連携が不可欠であることから、昨年5月には町内3農協と「地産地消及び食育の推進に関する協定」を締結した。内容としては、試験圃を活用し、町内の小学生を対象にした「農業体験塾」や一般町民の方を対象にした「農作物収穫体験会」の実施のほか、子供たちに町内産の食材を使った給食を提供するなどして、郷土への関心や食に関する理解を深める「ふるさと給食」などの事業に取組み、各種事業を

有機的に結び付けるなどである。

今後も、関係機関と連携を図りながら、町民がより一層地域の農畜産物に触れ、理解を深めることができるよう愛食に関する機会の創出に努めていきたい。

又、保健福祉センターで実施しているライフステーションに応じた料理教室や、ふるさと味覚工房を活用して実施している味噌作りや、豆腐作り講習会などがあり、いずれもできるだけ地場産の食材を使用するよう心がけている。

ご質問の「幕別町愛食週間」の制定や「幕別ふるさと味覚工房まつり」等については、取り組を進める上で有効なものであると理解しているが、愛食運動は年間を通して、あらゆる機会を活用して取り組んでいくことが大切だと認識している。

前段申し上げた各種事業を有機的に結び付けるなど、さらに充実させるとともに、関係機関と連携を図りながら、町民がより一層地域の農畜産物に触れ、理解を深めることができるよう愛食に関する機会の創出に努めていきたい。



ふるさと味覚工房味噌作り講習会